
Bloody Alice

夜月 零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Bloody Alice

【NNコード】

N9237Z

【作者名】

夜月 零

【あらすじ】

実際、”不思議の国のアリス”は、

“現実”に存在する。

しかも、昼は人間にまぎれて生活し、夜は・・・。

人を襲うんだ

そんな危険なAliceを倒すために集められた集団がある。

その名も、

守護者
ガーディアン

おぬ畠の匂いかけ。（前書き）

それまで、怖い内容になはしておつまむや。血はあまつ出來ねや。じ安心を。

ある男の問いかけ。

ねえ、君は知ってる？

「不思議の国のアリス」のお話を、

そうそう、アリスが穴へ落ちて不思議の国で、アリスが冒険する

たあのしいお話だ。

でも、そんなたあのしいお話は、童話の中でしか許されない話だ。

実際、”不思議の国のアリス”は、

“現実”に存在する。

しかも、昼は人間にまぎれて生活し、夜は・・・。

人を襲うんだ

そんな危険なAliceを倒すために集められた集団がある。

その名も、

ガーディアン
守護者

表向きの彼^ひ。

東京都 豊島区池袋AM9:00

ある高校の朝のH・M

キンコーンカーンコーン、

? 「おーい、もう座れ、時間だぞ…あ、そこのお前、遅刻だからな、

「 教師らしいような、教師らしくない大人が教室に入ってきた。
いまにも座りそうな、男子高校生が、俺?という風に自分を描でさ
していた。」

? 「ゲツ…遅刻?マジかよ~これくらい見逃して!..」

お願ひのポーズをするが、ムダだつたようだ。

遅刻してきたこいつは、如月騎士^{キサラギナイト}、

一見キャラそう…いや、少しキャラいのだが、学年トップといつ見
た目が残念な優等生。

? 「だーめーだ、教師なめんなよ?」

このだるそうにしているが、一応このクラスの担任をやっているこ

の大人は、

三城^{サンジヨウ}司^{ツカラサ}、クラスでいじられ役、そして苦労人。

騎士「ちえーヶチー…」

司「ケチじやねよ、教師だつづーの…あとお前、教師の前で堂々と
寝るな、」

持っていた出席簿で寝ていた生徒をたたく。

? 「いっつづつ…すんません…」

叩かれた頭を痛そうにさすりながら顔を上げているのは、一蓮^{イノハシレン}、
このクラスで一番まともで普通なのにこのクラスはキャラ濃い生徒
が多いので、

あまり目立たないという残念な主人公。

司「はあ…いつになつたらこのクラスはまともになるんだ?」

? 「いくらかかつても無理だよね、兄弟？」

? 「そうだよ、いくらかかつても無理だよ、兄弟」

クラスの中で唯一の双子、和泉 右、和泉 左、

見た目ではどっちがどっちか分からぬくらい似ており、いたずら好きで、お金好きといついらぬおまけ付き。

司「おい…その聞こえてんぞー！！！」

右「ちつ…ねえ、兄弟？ 前から思つたんだけど、あのオッサンって地獄耳だよねえ…」

左「そうだね兄弟、もう年なのに自分に都合の悪いことだけ聞こえちゃうんだから最悪だよね…」

司「なにか恨みもあるのか（怒）このバカ兄弟、」

そんな風に騒いでいると…。

? 「うつせーよ、このアホ教師、」

机に足を置きながら携帯をいじり、そして教師に向かつて暴言を吐いていふとんでもないこの女は、

東雲 律、見た目は大人っぽくてきれいだが、実は携帯依存症であり、口を開けると残念。

? 「そーですよ、もう子供ではないのですから朝から騒がないでくださいオ・ジ・サ・ン？

…あ、律さんはいいですかね？」

律の横で教師に生意気な口をきいているのは、柏木 悠、律のことをとても尊敬しているためいつもくつついて歩いている。見た目は可愛いが性格が少し…いや、かなり病んでいる。

司「お前らこそうるせーよ、携帯女、ぶりっこ、それと携帯のためにはコンセントを使うな、

学校を何だと思つてるんだ…」

? 「退屈しのぎ…ணṇṇ…」

机に顔をうつぶせながらつこんだのは、不知火 斑、

寝ることが多く、興味があること以外ほぼ寝ている。

そして、無理に起こううとすると、とても…いや、かなり怖い。

司「うわ……サイテーだな、つーかお前も起きあひよ、」

斑「ヤダ……寝る……ண�ண……」

司「起きあひて、起こせやしねえ、ここつは起こすと豹変するから

な、」

司は、頭をガシガシと搔きながら教卓の後ろに立つ。

司「で、始めるぞ、」

。

これが、”オモテ”向きの俺達の日常だ。
そして、”ウラ”向きの姿は・・・。

。

東京都 豊島区池袋 P M 14：25

ある学校の帰り時刻、

司「…これで終わる、」

司の声とともに一斉にクラスの生徒たちが、帰つていぐ。

騎士「おーい蓮、一緒に帰らないか？」

蓮「ああ、いいよ」

俺と騎士は幼馴染で仲がいい。

騎士「なあ、今日暇か？」

蓮「わりー今日夜バイトでさ、少し寝なきや、」

そう、今日は大好きなお仕事だ。

騎士「そっかバイトか…ってかお前バイトやつてたつけ？何のバイトやつてんの？？」

蓮「コンビニ…とか？」

一応何のバイトかを教えていない、教えてはいけないルールになつていてる。

たとえ、家族であつても親友であるひつとも。

騎士「何で疑問系なんだよ…。」

蓮「だつてまともに言つたら来るだろ…。」

騎士「そりや、もちろん、だつておもしろいだろ?」

蓮「ぜつてー教えねー…。」

。

そう話していくと、蓮の携帯が鳴った。

蓮「ゴメン騎士、ちょっと出てくれる」

騎士「わかつたじや、校門も前で待ってる」

蓮「じゃあ、後でな、」

蓮「はいもしもし、帽子屋ですけど、」

蓮「はいはい、11：15にそっちに行けばいいんですね、分かりました」

さっき言つてたとおり、騎士は校門の前で待っていた。

蓮「ゴメン、待たせた」

騎士「誰だつたんだ～？まさか、彼女？」

蓮「んなわけねえだろ、バイトからだよ、バイトから、」

騎士「なんだよ、つまんねえな、ま、いいや、帰るぞ、」

蓮「おう、」

帰つたら、早く準備しないとな、早くお仕事に行きたいし、早く、アノ場所へ。

表向きの彼。 (後書き)

正直こんなクラスあつたらしいなあって思いましたが、あつたらあつたらで、逆に迷惑だなあつて思つたりもします。皆さんはどう思いますか??

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9237z/>

Bloody Alice

2011年12月29日22時48分発行